

【夏目漱石作『こころ』下宿想像図】 2016.3.16JH

(先生の室) 玄関をまっすぐに行けば、茶の間、お嬢さんの間と二つ続いていて、左に折れるとKの室、先生の室という間取り。窓は一つもないが、押入の反対側に南向きの縁がある。玄関からは四畳の間(西にあるKの室)を横切らなければ行けない。御嬢さんの室は鍵の手に曲がった筋違いにある。御嬢さんが先生を呼びに来るときは、縁側を直角に曲がって先生の室の前に立つか、茶の間を抜けて次の室の襖の蔭から姿を見せる。

